

小児外科

1. スタッフ（2018年4月1日現在）

科 長（教 授）	小野 滋
病棟医長（助 教）	馬場 勝尚
外来医長（病院助教）	辻 由貴
医 員（助 教）	薄井 佳子
医 員	關根 沙知
シニアレジデント	1名

2. 診療科の特徴

「子どもと家族に優しい医療」を基本理念とし、世界水準の小児医療を地域医療へ還元することをモットーにしている。さらに数だけでなく、安全で質の高い小児外科医療の提供を行なっている。

・施設認定

日本小児外科学会専門医制度 認定施設
 日本外科学会専門医制度 認定施設
 日本周産期・新生児医学会認定 基幹施設
 日本小児血液・がん専門医研修施設

・専門医

日本小児外科学会 指導医	小野 滋
日本小児外科学会 小児外科専門医	小野 滋 馬場 勝尚 薄井 佳子
日本外科学会 指導医	小野 滋 薄井 佳子
日本外科学会 外科専門医	小野 滋 馬場 勝尚 薄井 佳子 辻 由貴 關根 沙知
小児血液・がん学会認定外科医	小野 滋
日本がん治療認定医	小野 滋
Pacific Association of Pediatric Surgeons active member	小野 滋

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者数 266人
 再来患者数 3,889人
 紹介率 87.6%

2) 入院患者数：397名

3) 手術患者数：378例

3-1) 手術症例病名別件数

主な手術症例病名	術名	件数
抜管困難	気管切開術	8
気管狭窄症・声門下腔狭窄症	硬性気管支鏡	39
	レーザー焼灼術	20
	バルーン拡張術	2
声門下嚢胞術後	硬性気管支鏡	1
気管軟化症	硬性気管支鏡	1
気切後状態	気管切開孔閉鎖術	1
横隔膜ヘルニア	横隔膜修復術	1
嚢胞性肺疾患	肺葉切除術	2
肺分画症（捻転）	分画肺切除	1
気胸	胸腔鏡下肺部分切除	2
胸水	胸腔ドレナージ	1
漏斗胸	ナス手術	1
	バー抜去術	2
梨状窩瘻	梨状窩瘻摘出術	2
側頸瘻	切除術	1
副耳	切除術	2
耳前瘻孔	摘出術	2
甲状腺舌嚢胞	嚢胞切除術	1
胃食道逆流症、嚥下困難	開腹胃瘻造設術	8
	腹腔鏡補助下胃瘻造設術	1
胃食道逆流症	開腹Nissen噴門形成術	4
食道閉鎖症	食道食道吻合術	1
食道重複症	胸腔鏡下重複食道切除	1
食道裂孔ヘルニア	噴門形成術（Dor法）	1
胃瘻造設術後	胃瘻閉鎖術	1
	胃瘻周囲肉芽切除	1
胃破裂	胃縫合術	1
胃軸捻転症	腹腔鏡下胃固定術	1
先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症	膜様閉鎖切除術・ダイアモンド吻合術	3
肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術	3
大網嚢腫	腹腔鏡観察、切除	1
小腸閉鎖症・狭窄症	小腸吻合術、膜様部切除	3
	イレウス解除術	2
短腸症候群	上部消化管内視鏡	1
	下部消化管内視鏡	1
	CVカテーテル挿入	2
消化管穿孔	回盲部切除	1
腹水、腹腔内膿瘍	腹腔ドレナージ術	3
腸回転異常症	ラッド手術	2
メッケル憩室	メッケル憩室切除術	2
ヒルシスプルング病	直腸生検	1
	腹腔鏡観察、回腸、虫垂、結腸生検	1
	ストマ造設	1

	下部消化管内視鏡検査 (Duhamel術後)	1
ヒルシュスプルング病 類縁疾患	直腸生検	1
	Santulli型ストマ再造設	1
	小腸ストマ・結腸生検	1
	肝生検	1
	イレウス解除術	2
	Santulli型ストマ再造設、横行結腸ストマ造設術	1
壊死性腸炎	試験開腹術、人工肛門造設術	1
	人工肛門閉鎖術	1
潰瘍性大腸炎	腹腔鏡補助下大腸全摘術、回腸ストマ造設術	1
	回腸囊肛門吻合術	1
クローン病	肛門周囲膿瘍ドレナージ	3
	下部消化管内視鏡	1
イレウス	イレウス解除術	5
	腸管切除術	2
盲腸捻転	イレウス解除術	1
急性虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	1
	開腹虫垂切除術	1
	腹腔ドレナージ	1
虫垂炎	待機的腹腔鏡下虫垂切除術	18
汎発性腹膜炎	腹腔鏡下ドレナージ	1
腹部コンパートメント 症候群	試験開腹、サイロ造設	1
	皮膚生検	1
	セカンドルック、閉腹	1
腸重積症	非観血的整復術（高圧洗腸）	11
直腸肛門奇形	人工肛門造設術	1
	下部消化管内視鏡	1
	腹腔鏡観察	1
	肛門形成術	3
人工肛門造設状態	人工肛門閉鎖術	3
総排泄腔外反症	人工肛門造設術	2
重複肛門	切除術	1
肛門ポリープ	切除術	1
VPシャントトラブル	腹腔鏡下癒着剥離、シャント位置調整	1
臍部洗腸路吻合部狭窄	再造設	1
胆道閉鎖症	開腹胆道造影、肝門部空腸吻合術、肝生検	2
先天性胆道拡張症	肝外胆管切除、肝管空腸吻合術、肝生検	1
胆石、総胆管結石症	ERCP	1
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	2
肝内胆管結石	ダブルバルーン内視鏡下結石破碎術	1
膵尾部腫瘍	腹腔鏡下膵尾部腫瘍切除術	1
脾嚢胞	腹腔鏡下脾臓摘出術	1

腹壁破裂	サイロ形成術	1
	腹壁閉鎖術	1
臍ヘルニア	臍形成術	18
臍帯ヘルニア	サイロ造設術	3
	根治術	4
外臍径ヘルニア・陰嚢水腫	臍径ヘルニア手術	128
停留精巣	精巣固定術	14
尿管管遺残	切除術	1
傍臍嚢胞	切除術	1
ユーイング肉腫	胸腔鏡補助下腫瘍生検	1
後腹膜腫瘍	腫瘍生検術	1
肝芽腫	肝切除術	2
卵巣奇形腫	切除術	2
卵巣嚢腫	切除術	1
良性腫瘍	腫瘍切除術	5
頸部・腋窩膿瘍形成	ドレナージ	1
リンパ管奇形	OK-432局注硬化療法	5
	切除術	1
消化管異物	異物摘出術	2
消化管出血、食道静脈瘤	上部消化管内視鏡	4
舌小帯短縮症	舌小帯形成術	1
CVカテーテル（ポート）挿入	CVカテーテル挿入	7
	” 抜去	” 抜去
腎不全	腹膜透析カテーテル挿入	1
小児泌尿器科と合同手術	回腸膀胱拡大術	2
	臍部洗腸路造設術	1
整形外科と合同手術	後腹膜腫瘍切除術	1
	合計	435

3-2) 手術術式別件数・術後合併症件数

総手術症例数	378
合併症件数	1
再手術症例数	2

3-3) 新生児外科症例

症例	性別	病名	新生時期の治療
1	男	臍径ヘルニア	経過観察
2	男	腸回転異常	ラッド手術
3	女	空腸閉鎖	小腸閉鎖症根治術
4	女	腎不全	腹膜透析カテーテル留置
5	女	胆道閉鎖症	開腹胆道造影、肝門部空腸吻合術、肝生検
6	女	敗血症、腸管壁内気腫	死亡
7	男	腹腔内嚢胞	大網嚢腫摘出術
8	男	総排泄腔外反症、臍帯ヘルニア	人工肛門造設術、臍帯ヘルニア根治術
9	女	空腸閉鎖	小腸閉鎖症根治術
10	男	肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術
11	女	消化管出血	経過観察

12	女	胎便関連性イレウス	注腸造影
13	女	十二指腸閉鎖症	ダイヤモンド吻合術
14	女	消化管出血	経過観察
15	男	胎児腹水	腹腔ドレナージ
16	男	空腸閉鎖	小腸閉鎖症根治術
17	男	胆道閉鎖症疑い	精査、経過観察
18	女	卵巣嚢腫	卵巣嚢腫摘出術
19	男	広範囲腸管壊死	試験開腹術、サイロ造設術
20	男	臍帯ヘルニア	臍帯ヘルニア根治術
21	女	声門下腔狭窄症	硬性気管支鏡、気管切開術
22	男	臍帯ヘルニア	臍帯ヘルニア根治術
23	女	臍帯ヘルニア	臍帯ヘルニア根治術
24	女	横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア根治術
25	男	甲状腺腫瘍疑い	経過観察
26	男	腹壁破裂	サイロ造設術、腹壁閉鎖術
27	女	腸回転異常症疑い	経過観察
28	男	頸部リンパ管奇形	経過観察
29	男	傍臍帯嚢胞	嚢胞切除術
30	女	胎便関連性イレウス	注腸造影
31	男	後腹膜腫瘍	後腹膜腫瘍摘出術
32	男	腸回転異常、中腸軸捻転	ラッド手術
33	男	十二指腸狭窄症	十二指腸膜様部切除
34	女	直腸肛門奇形(低位)	ブジー
35	男	直腸肛門奇形(中間位)	人工肛門造設術
36	女	ヒルシュスプルング病疑い	経過観察
37	女	肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術
38	男	頰部リンパ管奇形	経過観察
39	男	胎便関連性イレウス	注腸造影
40	女	卵巣嚢腫	経過観察
41	女	Pierre Robin症候群、小顎症	気管切開術
42	女	肺分画症	経過観察
43	女	卵巣嚢腫	経過観察
44	男	胃破裂	胃縫合術

4) 化学療法症例：すべて小児科との併診

5) 放射線療法症例：すべて小児科との併診

6) 悪性腫瘍：手術症例を参照

7) 手術死亡症例：0例

8) 死亡症例：0

回避しうる再入院：0

術後感染：0

術後合併症：1

褥瘡発生率：0

9) 主な処置、検査：上部、下部消化管造影検査

(毎週木曜日午後)

超音波検査(小児画像診断部に依頼し必要時適宜)

10) カンファランス

入院症例検討：毎日朝・夕

小児放射線カンファランス：(毎週月曜午後)

周産期カンファランス：(毎週月曜午後)

腫瘍カンファランス(Tumor board)：(毎月第3月曜日+必要時適宜：小児科、小児画像診断部、小児外科系関係各科)

二分脊椎カンファランス：(月1回；小児脳神経外科、小児泌尿器科、小児整形外科、看護部、PT)

栃木県小児外科症例検討会(年2回)

関東小児外科症例検討会(年2回)

11) キャンサーボード

参加診療科：小児外科、小児科、小児画像診断部、その他随時必要な小児外科系各科

実績：1年間に12回+ α

4. 2018年の目標・事業計画等

1) 小児外科スタッフのさらなる拡充

スタッフの5人体制の維持とシニアレジデント、大学院生の充実をはかる。新専門医制度開始に応じたレジデントローテートを随時受け入れ、外科系全体の臨床充実に貢献する。

2) 学生教育

2年生、5年生、6年生への系統講義と5年生の必修BSL、選択BSLを引き続き実施する。さらに小児外科セミナーを随時開講する。

3) 臨床面での発展

栃木県内はもとより関東全域、東北地方の医療機関からも積極的に適応患者を受け入れ、医療圏のさらなる拡大をめざす。高度技能を要求される小児外科疾患の治療に対応すべく、更なる医療水準の向上に努める。

手術件数を増やすことは、手術室による手術枠の制約から不可であるため、小児外科に特化した手術内容の質の充実をはかる。

4) 研究面での発展

臨床に即した問題点の解決をめざして、新たなリサーチプロジェクトを検討中である。難治性新生児疾患である気管狭窄症、A型食道閉鎖症に対する基礎研究を行っており、さらなる発展を進める。